

笹ヶ峰ダム補修工事で現場見学会

県コンクリート診断士会12名が参加

コンクリートメンテナンス協会が主催

(一社)コンクリートメンテナンス協会(極東興和株)が主催する笹ヶ峰ダム補修工場の現場見学会が10月26日と27日の2日間、開催された。

今回の現場見学会は、「関川用水農業水利事業笹ヶ峰ダム洪水吐施設補修工事」の現場で、発注者となる北陸農政局関川用土地改良建設事務所および施工者である久保田建設株の協力により実施したもので、同現場で採用されている亜硝酸リチウム内部圧入工(ASRリチウム工法)の施工の様子を公開した。

このうち、新潟県コンクリート診断士会のメンバー12名が参加した26日の見学会では、コンクリートメンテナンス協会の杉澤茂則委員(極東興和株東京支店・営業部営業課課長)らによる工事概要および工法技術を説明する座学が行われたほか、同現場の現場代理人を務める中澤寛之氏(久保田建設株・工事部土木課主任)らが実際の施工現場を案内した。

見学会に参加した新潟県コンクリート診断士会の近藤治副会長らは、アルカリシリカ反応(ASR)の劣化状況などを写真に撮るなど視察しながら、同工法を採用した経緯など様々な質問をして

いた。また、見学会終了後、取材に答えた近藤副会長は、「補修材の仕組みなど理解を深められた」と話し、今後のコンクリート診断や補修に向けて知見を深めていた。



ASRリチウム工法見学の様子

■亜硝酸リチウム内部圧入工(ASRリチウム工法)

アルカリシリカゲルを非膨張化する性質を持つリチウムイオンを亜硝酸リチウム水溶液という状態でコンクリート内部に圧力をかけて浸透させ、以後のアルカリシリカ反応(ASR)を抑制する工法。

従来工法や従来工法に亜硝酸リチウムを加えた工法では、再劣化までの期間を延命するのみで、数年ごとの補修が必要となっていた。一方、本工法では、劣化進行を根本的に抑制する(再劣化を許容しない)ことからインシヤルコストは掛かるものの、ライフサイクルコストは安価なものとなっている。

女性目線で工事現場をパトロール

安全・安心な職場環境の構築へ

ハッピースマイル隊40名が―福田道路株

福田道路株とその協力業者などで行く新潟福友会はこのほど、同会の女性社員などで行く「ハッピースマイル隊」による現場パトロールを開催し、その様子を報道陣に向けて公開した。

ハッピースマイル隊は、新潟福友会に所属する企業に勤務する女性社員と、同社新潟本店管内の支店・営業所・合材工場に勤務する女性職社員などで行く組織。

ハッピースマイル隊による現場パトロールは、工事現場やその周辺環境などについて、普段現場に出ることない女性社員の目線でチェックしてもらうことで、より安全で安心な職場環境をつくるために実施しているもので、今年で4回目の開催となる。

現場パトロールは、「令和4年度一般



ICT舗装工見学の様子

国道403号三条北道路市道舗装工事(発注者:県三条地

域整備)」の現場で行われ、今回は同社を含む12社から40名が参加した。パトロールでは、現場の状況などについてチェックしたほか、同現場で採用されているICT舗装工のようすなどについても見学した。

パトロールに参加した福田道路株の船越貞子さんは取材に対し、「整理整頓されたとても良い現場」とパトロールで気づいた点を話した上で、ICT舗装工(特にモーターグレーダによる敷均し)については「GPSを活用して自動で行っており、すごいと感じた」とICTによって生産性が向上している工事現場の様子に驚きの声を挙げていた。

見学会で参加者の案内などを務めた同社新潟本店技術部の吉井哲男課長は、「女性社員には一般に近い目線で現場パトロールしてもらい、作業員では気づかない危険な箇所を指摘してもらいたい。そして、この成果が女性や若手の入職しやすい環境につながっていれば」とパトロールの成果に期待を寄せた。

BIM/CIMモデル活用し地質リスク明確化を

ボーリング稼働状況などで認識共有化

北陸地協が北陸地整ら幹部と意見交換

北陸地質調査業協会(北陸地協、平野吉彦理事長)はこのほど、北陸地方整備局幹部との意見交換会を新潟市の新潟オークラホテルで開催した。

会合では、BIM/CIMモデルを活用した地質リスクの明確化が重要になると双方で意見が一致。具体的には、3次元の地質リスクモデルを3パターン程度示すことにより、その後スムーズな事業が図られるとして、この取組が標準化されるよう、今後両者が一体となって検討を進めていくとした。

会合ではこのほか、北陸地協が提案・要望事項としてあげた①働き方



意見交換会の様子

改革・担い手確保②入札・積算③業務遂行一に関する

諸課題について双方で意見を交わした。

このうち、①働き方改革―では特に、北

陸地協側が中長期的な担い手確保・育成に向けて、地質調査業の継続的な発展が不可欠として安定的な公共事業予算の確保を要望した。

②入札・積算―では、総合評価落札方式の業務における調査数量・調査内容の明確化のほか、モノレール運搬の費用について積算基準に条件の無い設置勾配等ではリース料の費用が加算されるとして、これら市場価格で補うことのできない現場について、別途の見積として積算できるよう要望した。

③業務遂行―では、発注時における実施可能時期の条件明示や機械ボーリング検尺にけるリモート検尺の活用を求めた。

会合では意見交換のほか、北陸地協がボーリング機械の稼働状況などについて情報提供し、稼働の平準化に向けて認識の共有化を図った。

4年度の建設資材需要見通し

2資材で前年比増―国交省

国土交通省は、4年度の主要建設資材需要見通しをまとめた。調査対象の全6資材のうち、セメントと普通鋼鋼材の2資材で需要が増えると予測する。

4年度の需要見通しは、同省の建設投資見通しを踏まえて需要量を推計した。

各資材の需要見込み量は以下のとおり。

▶セメント3,800万t(0.3%増)▶生コンクリート7,600万m³(0.1%減)▶砕石1億400万m³(増減なし)▶木材900万m³(1.3%減)▶普通鋼鋼材1,900万t

(0.6%増)▶アスファルト100万t(5.8%減)。

黄綬褒章に鈴木秀城氏

秋の褒章受章者を決定―政府

政府はこのほど、令和4年秋の褒章受章者を11月3日付けで発令する。

このうち、業務に精励して衆民の模範であるものに賜与される黄綬褒章として、本県の建設業関係から現株笹原建設代表取締役の鈴木秀城氏(63)が選ばれた。

なお、県からの伝達式が9日、新潟市のハミングプラザVIP新潟で開かれる。

11月10日発売

本県唯一の発注官公庁等の職員名簿(データ版)



令和4年10月10日現在版 秋特別号

北陸地方整備局本局・北陸農政局本局、新潟県公共四部局(土木部、農地部、農林水産部、交通政策局)、新潟市、長岡市、上越市(課長級以上)を収録。

●料金3,500円(税込3,850円)

(今回はデータ販売のみとなります。ご指定のメールアドレスへExcelデータにて送信いたします。)

お申込、お問合せは弊社営業までご連絡下さい。

TEL 025(281)3500(代) FAX 025(281)3504
URL <https://www.kensetusokuho.com/>

株式会社 建設速報社
本社/新潟市中央区出来島1丁目10番3号